

愛知県感染症情報

平成 11 年第 38 週（9 月第 4 週）

（コメント）

特に目立つ疾病はありませんが、突発性発疹及び流行性耳下腺炎が流行しています。今は年間を通じて感染症の少ない時期であります。従来の傾向では、この後秋から冬にかけて A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎等が増える可能性があります。

なおコメント中のキャンピロバクターを厚生省表記のカンピロバクターに統一しました。

（先生方からのコメント）

- ・ サルモネラ腸炎（グループ 9）2 人（3 才男、0 才男）
38 度くらいの熱で時々胃腸症状のでる児がいます。
（豊橋市 医療法人こどもの国大谷小児科）
- ・ これといった流行はありません。
（岡崎市 花田こどもクリニック）
- ・ 一部地域で、手足口病が流行中。
サルモネラ 0-4 及び病原大腸菌 0-1 8 ヶ月
（幸田町 とみた小児科）
- ・ 黄色ブドウ球菌 MRSA（-）2 人（9 ヶ月男、5 才男）
（岡崎市 にいのみ小児科）
- ・ サルモネラ 0-6 5 才男
（西尾市 山岸クリニック）
- ・ 病原性大腸菌 1 才男
カンピロバクター 2 才男
（知立市 近藤こどもクリニック）
- ・ むし暑さが続くためか、まだ伝染性膿痂疹が多くみられます。
喘息発作が少し目立ってきました。
手足口病、突発疹散発。
その他感染症の大きな流行はありません。
（尾張旭市 医療法人誠和会佐伯小児科医院）
- ・ 8 月下旬より 39～40 度の発熱のある化膿性扁桃炎がよくみられます。何れも、溶連菌は（-）でした。1 例は、黄色ブドウ球菌でした。他は常

在菌のみでした。

(春日井市 かがわ北病院)

- ・ 単純ヘルペス性歯肉口内炎が増えています。

(立田村 谷本医院)

- ・ 腸炎ピブリオ 16才男

(師勝町 師勝クリニック)

- ・ 病原性大腸菌陽性者 EPEC O-1 2才4月女、O-111 4才男
ヘルパンギーナが増加してきました。

(尾西市 城後小児科)

- ・ 手足口病、ヘルパンギーナまたふえている。

(岩倉市 なかよしこどもクリニック)

(1~3類感染症の発生状況)

細菌性赤痢患者 1名。

新城保健所から報告の 35才女。9/8 発病、9/13 初診、9/17 診定。

菌型は、B群 2a。インド渡航歴あり。

腸管出血性大腸菌感染症患者 1名。

豊川保健所から報告の 7才男。9/10 発病、9/11 初診、9/21 診定。

菌型は、O157 VT1(+)、VT2(+)

(全数把握の4類感染症の発生状況)

発生はありません。

第36週(9月6日~9月12日)の4類感染症の全国状況

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、感染性胃腸炎、突発性発疹、ヘルパンギーナなどの疾患が例年の同時期に比べ定点当たり報告数がかなり多くなっている。ヘルパンギーナは秋田県で定点当たり 5.43、宮崎県で 3.49 と報告が多くなっている。今週はインフルエンザの定点当たり報告数が例年の同時期よりやや多くなっており、宮城県からは 23 件の報告があった。病原体については検査が行われていない。流行性角結膜炎は群馬県で定点当たり 4.00、愛媛県で 3.00 と報告が多くなっている。

(Infectious Diseases Weekly Report より抜粋)

厚生省感染症研究所感染症情報センター感染症情報室提供)

暑くて湿っぽい天候不順の日が続いていますが季節は確実に移っており、仕事を済ませて外に出ると、暗くなった病院の中庭では虫の音が賑やかになってきた昨今です。いつも貴重な情報を有難うございます。9 月前半のまとめをお送りします。

1. 名古屋市内：手足口病やヘルパンギーナ、アデノウイルス感染症などの「夏カゼ」の流行がすっかり消褪して、地区によっては小学生を主体に熱だけの感冒や扁桃腺炎がぼつぼつ発生しているだけという状況ですが、カンピロクターや病原性大腸菌による細菌性下痢（時に長引く例あり）が各地区で散発しています（名鉄病院宮津先生、国立病院松下先生、城北病院渡辺先生、千種区今枝先生、三菱病院岩間先生、労災病院山田先生）。

マイコプラズマ感染症を含む肺炎による入院が日立つ地区もありますが、天候不順のせいでしょうか感染症で誘発された気管支喘息発作もやや目立っています（名鉄・宮津先生、国立・松下先生、城北・渡辺先生、三菱・岩間先生、労災・山田先生）。膿痂疹やブ菌性火傷様皮膚症候群が相変わらず目立つ地区と減少傾向の地区があります（第二日赤岩佐先生、城北・渡辺先生、千種区今枝先生、労災・山田先生）。その他、久しぶりに無菌性髄膜炎 1 例（城北・渡辺先生）、6 歳児の顔面の帯状疱疹が 1 例と保育園児の伝染性紅斑が 2 例（千種区今枝先生）、仮性クループの入院例と乳児百日咳入院例が目立った（労災・山田先生）などの報告をいただいています。

2. 尾張地区：犬山市武内先生からは溶連菌による扁桃炎が多い、津島市民病院片桐先生からは特に目立つ感染症はなかった、江南市昭和病院丸地先生からはムンプスは下火になり百日咳の入院が数人、MRSA 皮膚炎の入院が目立つが外来・入院患者全体が減少傾向にあり、岩倉市永吉先生からは突発疹が目立つ以外には感染症は少ない、常滑市民病院肥田先生からは水痘が少々ある以外には特に目立った感染症はない、市立半田病院中島先生からも特に目立った感染症はなかった、とのお手紙をいただいています。

3. 三河地区：豊田地区からは、最近めっきり小児科の患者数が減少、感染症もほとんどなくて無菌性髄膜炎もゼロ、大腸炎の入院がバラバラ程度という状況で、どうなっているのでしょうかというお手紙がとどきました（トヨタ病院岩瀬先生、竹内病院梶田先生）。市立岡崎病院系洲先生からも特に目立つ感染症はなかった、安城更生病院小川先生からはムンプスがやや増加、ムンプス髄膜炎の入院あり、知立市近藤先生からはヘルパンギーナと水痘、ムンプスがパラパラ、熱性感冒がやや多く百日咳 1 例、刈谷市田和先生からは突発疹が 2~3 例あり、DPT 未接種の百日咳 1 例、碧南市永井先生からは一時減少した手足口病が最近再び目立つ、豊橋市からは膿痂疹、突発疹、ムンプスが目立つとのお手紙をいただきました（市内長屋先生、宮澤先生）。有難うございました。（文責 磯村）